オンライン授業／WEB会議
と「協働学習」とに親和性はあるのか
マレーシアの場合

マレーシア協働実践研究会
木村かおり　マラヤ大学

1

ずばり！

日常的なオンライン授業／Web会議は
マレーシアにおいて教師・学習者共に
「協働学習」を促進している。

＊以下、池田・舘岡（2007）で述べられている
「対等・対話・プロセス・互恵性・創造」という観点で捉えてみる。

2

日常的なオンライン授業/Web会議がもたらしたもの

学生に

＊課題へ積極的に取り組む力
・みんなが一番前の席に座れる（対等）
・教師に今までとは違った距離でアクセスできる
＊コメントし対話する力
・現実の教室では、友達と並んで座る学生たちが
Breakout Roomで毎回異なる学生との共同作業の体験をした。
・Google DriveやSNSを使った共有が学びのプロセスの共有を
学生たちに促した。

話す量が
変わった

3

日常的なオンライン授業/Web会議がもたらしたもの

教師たちに

＊機関を越えて集まることを可能にする協働力
＊ミーティングやセミナー開催を可能にする協働力
（授業を変えるためにはつながる必要性？！）

教師の協働的な営み
の場がないことが
課題であった。

セミナーを
実施する
パワー

2020年教師たちによる
セミナーが実施された！

4

今後、
日常的なオンライン授業/Web会議がもたらすもの

教師と学生に

たとえば…

＊「多方向の交流」から「無国籍の空間における交流」実践へ
➡送り出す留学ではなく、共に作る留学に転じる
（オンライン共修）
・留学した学生だけが学ぶのではなく、
受け入れ／共修した学生も学ぶ。（互恵性）

5

今後、
日常的なオンライン授業/Web会議がもたらすもの

教師と学生に

➡受け入れ教師が学びの場を作るのではなく、
engageしたすべての教師が場を作り学び合う（互恵性）

➡複数の教師と学生たちによって
創造される新たな協働力や協働学習の可能性

6

日常的なオンライン授業/WEB会議は・・・
ボーダーレス、無国籍空間の交流授業
という学生と教師両方を活動主体とする、
新たな「協働学習」を促進する可能性を秘めている。
早稲田大学
マラヤ大学

7